



目的別 / 1日研修

Revised

ワークショップデザイン

協働や合意形成のための“場づくり”を
体験的に学び、会議等にかす

➤ 本研修の概要とねらい

- ① メンバーの協働や合意形成を生み出す場について、体験を通して理解する
- ② ワークショップを構成するファシリテーション、アイスブレイク、チームビルディング、グラフィッカーなどの要素を学ぶ
- ③ 具体的なテーマでワークショップをデザインしてみる

➤ 主なコンテンツ

近年、様々な場面でワークショップ形式の場がつけられる。ワークショップの基本的な考え方や、デザイン手法について、ワークショップ形式で体験的に学ぶ

➤ 演習/実習の内容

【グループワーク】

- ・アイスブレイク
- ・チームビルディング
- ・ファシリテーションの実践
- ・チーム対抗、ワークショップをつくってみる

➤ 受講対象(推奨)

全職員

➤ 講師からの一言

会議やイベントをもっとアクティブにしませんか？
個人ファシリテーションだけに頼ることなく、
ワークショップ全体の諸要素を工夫することで、
より効果的で創造的な場づくりができると思います。



一般社団法人 日本経営協会講師
北野 清晃(きたの きよてる)

大学院を修了後、都市計画コンサルティング会社に入社。自治体の計画策定業務やまちづくりワークショップの企画運営に携わる。その後、人材育成を支援する公益法人に入職。企業や自治体の研修やセミナー、シンポジウム、委員会等の企画業務に8年間従事する。同社退職後、実家の中小企業支援に取り組むとともに、京都大学大学院にて、経営学やエスノグラフィー等の観察手法を学ぶ。

現在は、組織デザイン、サービスデザインの研究活動に取り組むとともに、企業や自治体にて研修/ワークショップの企画、講師/ファシリテーターとして活躍している。

博士(総合学術)、専門修士(経営学)・修士(工学)、中小企業診断士、一級建築士、一級販売士、ビジネスコーチ、キャリアコンサルタント

著書に『組織論から考えるワークショップデザイン』などがある。

ワークショップデザイン(場づくりを学ぶ)

1日研修タイムテーブル案

講義テーマ	主なコンテンツ
1. はじめに (1)アイスブレイク (2)アイスブレイクの意義、手法 (3)本研修のゴールと進め方	☞学ぶための場と関係性をつくる 加えて、ワークショップの冒頭部分のアイスブレイクを数パターン行い、意義や手法を学ぶ
2. ワークショップとは何か (1)ワークショップ観、発展の歴史 (2)ワークショップが活用されている領域 (3)ワークショップの定義 (4)ワークショップの構成要素、事例 (5)チーム・組織の構造、陥りがちな罠 (6)実務的なポイント	☞ワークショップについての基礎知識を学ぶ 実践事例やワークショップ研究の知見をベースに、体験ワークやクイズを交えて学ぶ
昼食休憩	
3. ワークショップをやってみる (1)ファシリテーター編 (2)グラフィッカー編 (3)ふりかえり・フィードバック	☞チームごとに模擬テーマを使って、ファシリテーターやグラフィッカー、メンバー等の役割を交代しながら、ワークショップを実際に回してみる その後、それぞれの要素についてふりかえる。
4. ワークショップをつくってみる (1)プログラムとアクティビティ (2)ぐるっと一回りする仕掛け (3)模擬テーマによる実践 (4)相互フィードバック	☞ワークショップの設計をチームでやってみる。 具体的な依頼内容について、どのようなプログラムや活動に工夫を加えるかを、考える 全体で議論を深めつつ、フィードバックする。
5. まとめ (1)ふりかえり (2)ワークショップをどう活かすか？	☞それぞれがどのような場面や立場でワークショップを活用していくか対話し、お互いが支援する。

■本研修を受講した研修生の感想

- ☞職場内の会議をアクティブにするための具体的なヒントを得ることができた
- ☞プレゼンではなく、参加型で協働する意義や、方法を体験的に学ぶことができた
- ☞イベント企画のやり方を根本的に見直し、すぐに実践してみたい

■本研修コーディネーター担当者からのワンポイントメッセージ

- ☞ミニクイズや、ペア・グループワークなど豊富な演習を採用しています。
受講生が、自分事として考える場、お互いに学ぶ場をつくります。

本研修に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本経営協会 関西本部
〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4(大阪科学技術センタービル)
電話 06-6443-6925 FAX 06-6441-4319
URL <http://www.noma.or.jp>